

## ジオパーク吟行案内(一)

### 日本のジオパーク

尾池和夫

ジオパークとは、大地の仕組みを学ぶ公園であり、大地に支えられて暮らしている人々とともに、その地域の大地の仕組みを愉しみながら学ぶ場所である。日本列島は、中緯度にあつて、四季折々の自然の移ろいにしたがつた暮らしが歴史の中で整ってきた。そのような自然と生活に感動しながら歳時記が編集され、名句が生まれた。

大地の恩恵を、意識するか意識しないかにかかわらず、地域の歴史は大地の仕組みに影響を受け、大地の仕組みによって築きあげられてきた。そのことを、ジオパークになることによって、その地域の人々自身があらためて深く認識し、暮らしや歴史を示しながら具体的に大地の恩恵を語り伝えることが出来るようになる。地域の人々自身がガイドになって、そこを訪れた人々と一緒に愉しむとき、ジオパークの役割が生きてくる。

二〇〇八年、日本ジオパーク委員会が発足し、日本のジオパーク申請を審査する制度が出来て以来、ジオパークを育てる活動が地道に行われ、二〇一八年九月二〇日現在、四四か

所の日本のジオパークが生まれた。その中に、ユネスコ世界ジオパークと認定された地域が九か所、日本ジオパークと認定された地域が三五か所ある(●のページ参照)。

広辞苑第七版に「ジオパーク」の見出しが登場したことは、この仕事を進めてきた私にとってうれしいことの一つであった。自分の取り組んできた仕事は新しく辞書に載るということは滅多にない。

さっそく新しい辞書を読んで、少しがっかりした。説明を訂正したのである。広辞苑では「(geology)の parkとの合(成語)地質学的に重要で景観に優れた地形を有する地域。保全や研究・教育、観光資源としての活用を目的として、世界ジオパーク・ネットワークが認定。国内では日本ジオパーク委員会が日本ジオパークを認定する」とあるが、ジオパークの「ジオ」は大地を司る神、「ガイア」のことであり、単に「地質学的に重要」だけではない。

日本ジオパークネットワークのウェブサイトでジオパークの説明を引用しておくと、「ジオパークとは、「地球・大地(ジオ・Geo)」と「公園(Park)」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球(ジオ)を学び、丸ごと楽しむことができる場所をいいます」とあり、さらに「大地(ジオ)の上に広がる、動植物や生態系(エコ)

の中で、私たち人（ヒト）は生活し、文化や産業などを築き、歴史を育んでいます」と続く。山や川の成り立ちと仕組みを知れば、年月をかけてつくられてきた地球の活動なしに私たちの暮らしはないということがわかる。

それぞれのジオパークでは、これぞ見どころという場所を「ジオサイト」に指定してあり、地域の魅力を知り、利用できるよう、それを保護する活動を行っている。

訪問するときには前もって地域のジオパーク協議会に連絡し、ガイドを頼んでほしい。それによって今まで気づかなかった大地の営みや自然を、さらに深く愉しめることになる。また、言うまでもないが、環境の改変につながる動植物や岩石の採取や破壊は厳に慎んでほしい。他の地域産の岩石や鉱物、化石類を販売する行為も、ジオパーク活動では認められていない。

ユネスコ世界ジオパークは、第三八回ユネスコ総会で正式事業化が決定され、ユネスコの国際地質科学ジオパーク計画（IGGP）の一事業として実施されており、二〇一七年五月現在、三五か国、一二七地域が認定されている。

日本ジオパーク委員会は、ジオパークを目指す地域が、持続可能な地域社会の実現のために、その地域にあったやり方で、住民、行政、研究者などの関係者がともに考え続けている

るか、また、そのために、これまでのやり方を変える覚悟があるかということ、基本的な審査基準としている。

また、日本のジオパークもユネスコ世界ジオパークも、それぞれ、四年に一度の厳しい再審査を受けることによって、その質が高く保たれる仕組みになっている。そのことによって、地域の人たちが継続的に活動しているというのが大きな特長となっている。日本ジオパーク委員会が行う再認定審査では、地質遺産の保全、活用の仕組みと取り組み、前回審査時からのジオパーク活動の進展などについて審査する。これは、国際地質科学ジオパーク計画の定款とガイドラインの考え方に準拠した方針である。

ジオパークでは、地形や地質と深くかかわる暮らし、歴史、食べ物などを五感で感じ取ってほしい。私は、ジオパークの基本を「見る、食べる、学ぶ」と言い続けてきた。これに、大地を理解し、大地を見つめて、「詠む」と付け加えたいというのが、このシリーズの大きな目的である。

（おいけかずお 氷室主宰、俳人協会名誉会員、京都造形芸術大学学長、静岡県公立大学法人理事長、日本モンキーセンター理事長などを兼任。二〇一八年三月まで一〇年間日本ジオパーク委員会初代委員長を務めた。著書に『四季の地球科学』（岩波新書）など。句集に『大地』『瓢鮎図』（角川書店）